

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC Design Award 2014 ー主催団体にキックオフを開催ー

PVC Design Award 事務局

■ [随想](#)

◇日本のお祭りシリーズ（その13） ー山形化け物祭りー

関東学院大学 織 朱實

■ [編集後記](#)

## ■ トピックス

◇PVC Design Award 2014 ー主催団体にキックオフを開催ー

PVC Design Award 事務局

既に、「PVC Design Award 2014」のデザイン提案を募集していますが、製品応募も7月1日からスタートしました。前回を上回る応募を期待して、主催・協賛団体の代表26名が一堂に集まり、7月3日に東プラ健保会館で成功を祈念してキックオフの会を開催しました。

はじめに、三原運営委員会議長から、各団体の協力に対する感謝と今後に向けた結束を求める挨拶があり、続いて事務局からデザインアワードの成功を祈念し、トピックスとして今年グリーン購入ネットワーク（GPN）の情報提供項目から塩ビが削除された話題を紹介しました。

また、西日本プラスチック製品加工協同組合副理事長でPVCNextの河野代表幹事から、このアワードを契機に上田学園とのコラボに発展し、協同で製品開発に取り組んでいる様子や学生がこのアワードに強い関心を持っていることなどを紹介いただきました。

キックオフ会の後には、関東地区の主催団体会員会社の方々も交えて懇親会を開催しました。日本ビニール商業連合会の勝山会長から、今回4回目の開催の運びとなった喜びとアワード成功に向けた力強い挨拶をいただき、歓談の後、東日本プラスチック製品加工協同組合の時田理事長から加工組合を代表して挨拶があり、サプライチェーン4団体が一堂に会するアワードは他に例を見ないこと、今回の黄色い蛍光色のポスターがデザイナーには思いのほか好評で評価いただいたことなどを紹介され、最後に三三七拍子の拍手で会が締められました。



キックオフの会（懇談会）



懇親会

これまでのアワードで交流したデザイナーと加工メーカーが最初から手を組んで製品応募するという話も聞こえており、アワードの外でもこういう交流が広がれば塩ビ業界の活性化にも繋がると考えております。このキックオフ会は、参加されたソフト PVC のサプライチェーンの皆さんが地域とビジネスの垣根を越えて繋がり、このアワードの成功と広がりへの期待がもてる会となりました。

今回の「PVC Design Award 2014」のテーマは「I want this！」（これ欲しい！）です。ひと目見て欲しい！、相手に欲しいと共感されるソフト PVC 商品！、このような商品をソフト PVC の特性を活かして作り上げたいというのが今回のアワードのコンセプトです。新たな価値をつくり出すデザインとそれを実現させる確かな技術が合わさってできる実用的でかつ独創的な製品は、ひと目見て「I want this！」と思うに違いありません。

PVC Design Award の最大の特徴は、デザイン提案応募と製品応募があり、デザイン提案で一次審査を通過した作品は、ソフト PVC 加工会社の卓越した技術を得ながら無償で試作品をつくり、同じく製品応募で一次通過した製品と合わせて最終審査に臨みます。

ソフト PVC という素材に価値を見出し、国内はもちろん世界の人たちの購買意欲をかきたてる商品価値の高いデザイン提案・製品を期待しています。

デザイン応募の締め切りは7月30日です。製品応募の締め切りは9月30日です。是非、奮ってご応募ください。

詳細な募集要項、応募用紙等は[公式サイト](#)からダウンロードできますのでご利用ください。

## ■ 随想

### ◇日本のお祭りシリーズ（その13） —山形化け物祭り—

関東学院大学 織 朱實

お祭りの中には、いわゆる奇祭というものがあります。例えば、白塗りにひょっとこのようなメイクをした男が「笑え、笑え！」と脅してくる和歌山県川辺町のお祭り、泥まみれの怪人が家に泥を塗りたくる宮古島のパートウン。こういったお祭りに比べると三大奇祭といわれている鞍馬の火祭、吉田の火祭りなどは火を扱っているだけで割と普通？と思えてしまうくらいです([日本のトンデモ祭り研究家杉岡幸徳氏のHP](#)では、昔は暗闇で「火」が貴重であったため「奇祭」となったのではと解説されています)。

さて、東北地方にもいろいろなお祭りがありますが、私的には、東北の3大奇祭は、[なまはげ（既に紹介済み）](#)、青森県新郷村（もとの村名は「戸来村」）で行われる「キリスト祭り」。なんと、このお祭りは、キリストはゴルゴダの丘では処刑されておらず（処刑されたのはイエスキリストの弟イスカリ。誰？笑）、日本にわたってきて新郷村でなくなったという伝説に基づくものです。お祭りは、イエスキリストのお墓と称されている土盛りのまわりを、ヘブライ語？のお囃子「ナニヤドヤラ〜」を歌いながら踊るといふかなり奇妙なお祭りです（この新郷村にはキリストのお墓だけでなく、古代ピラミッドもあり、オカルトマニアの間では有名な地域だそうです）。今では、村のバス観光ツアーも開催されており、有名観光スポットになっているようです。

そして、今回写真を撮りに行ってきた山形鶴岡の化け物祭り。化け物祭り、という名前からして奇祭っぽいのですが、正式名称は、「鶴岡天神祭り」。毎年5月25日に開催されます。鶴岡天神祭りは、老若男女の別なく、派手な花模様の長襦袢に角帯を締め、尻をからげ、手ぬぐいと編み笠で顔を隠し、手に徳利と杯を持ち、無言で酒を振る舞うお祭りです。



老若男女の『化け物』勢ぞろい

菅原道真公が九州太宰府に流された際に、道真公を慕う人々が時の権力者をはばかり、顔を隠して密かに酒を酌み交わし、別れを惜しんだのが謂れだそうです。

化けもの姿で、3年間誰にも知られずお参りができると、念願がかなうということで、女物の派手な襦袢をまとい、手ぬぐいと笠で顔を隠した『化け物』（変装した人、という意味でしょうね）が、無言でお酒を誰かれ構わず勧めるという、かなり変わったお祭りです。とはいえ、地元の人にとっては昔からある『普通のお祭り』のようです（ちなみに子供や飲めない人にはジュースがふるまわれます）。路上に座って、化け物の行進を見ているだけで、かなりのお酒をふるまわれることになるので、見物客の中には酒のつまみを傍らに用意して、すっかり出来上がっている人たちもいます（笑）。



菅原道真公を見送る行事が祭りの発端ということですが、地元の人たちも「このいわれは、どうも後付では？」と思っているらしく、そもそも本家本元の大宰府でも見送った京都の天満宮でも、このような化け物祭りはないので、今回案内して下さった某化学会社Kさんいわく「単に飲みたかっただけではないの？」というのも、意外とあたっているかもしれません。さらに、このお祭りの不思議なところは、天満宮に天狗舞と獅子舞を奉納する点だそうです。全国でも天満宮に天狗舞を奉納するのはここ鶴岡だけらしいとのこと。



見物客にお酒をふるまう『化け物』

祭りの歴史的検証は、鶴岡市の作成した「鶴岡市歴史的風致維持向上計画(平成26年3月)」がかなり詳しく、「初めは獅子舞・天狗舞が許され、それが城下に出ようになり、これに「にわか」というその後の仮装の原形となるものも加わり、嘉永4年(1851)頃には神輿渡りの行列に当番町の子供も加わるなど、天神祭は次第に形を整え、さらに藩士の天神信仰も加わって益々盛んになる」。鶴岡は講道館もあり、武士の学問、信仰も厚かったよう。

化け物祭り誕生の別の説では「天神信仰は元々武士の間に広まった学問信仰であり、天神様の祭礼日に武士達が仮装して天満宮に酒を持参し、そのお流れを頂戴した。それが庶民にも広がり、そうすると逆に庶民と一緒に祭を祝うことをよしとしなかった武士達が顔を隠した仮装をして、一種の無礼講として参拝したとも伝えられている（小宮山裕「化け物祭り考」）」もあるそうです。



なんにしても、『化け物』祭りという一瞬ぎょっ！とするネーミングにもかかわらず、お祭り自体は大人も子供も仮装をして、お酒やジュースをふるまうという和気あいあいとした楽しいものです。ハロウィーンのお祭りの逆バージョンの日本版という感じでしょうか？



庄内エリアは、山岳信仰の本家である出羽三山（月山、羽黒山、湯殿山）もあり（写真は、国宝の五重塔と湯殿神社入口）、特に湯殿神社は温泉の湧き出る巨岩が御神体で写真厳禁、土足厳禁という神秘的な体験ができる神社（登るのが大変ですが）で、一度はお参りをしたい信仰の地です。というわけで、初夏の5月に庄内エリアの魅力に改めて気づかされた1日でした（ちなみに化け物祭りの開催される日は、私の誕生日でもあります。大笑）。

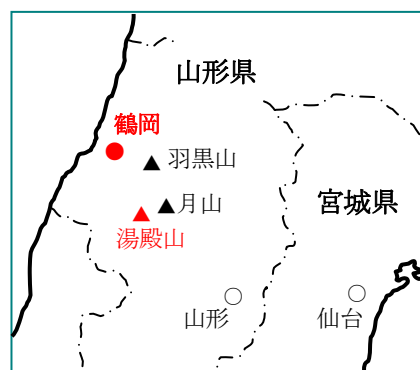
今回は、6月末の江戸川区の歴史ある幟祭り、富山の山王祭の様子をご紹介します！



全国いろいろな風景写真も、ブログでもアップしているので、よければ是非見てください。

⇒ [ブログはこちらです。](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)



## ■ 編集後記

最近 Facebook を始めました。仕事の関連である加工団体の方々が、グループ限定で仕事の情報をやり取りしていることからこれに参加するため始めましたが、登録した途端、今まで音沙汰なかった学生時代の友達から突然連絡が来て、その威力？に驚いています。その友達とのつながりで当時の友達とも連絡が取れ、近況を伝え合ったりしています。

(ももった)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)